

御前山ビオトープ通信

平成24年10月16日

第39号

発行：御前山ダム環境センター

編集：NPO「美しい田園21」清野

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>



【案内図】



目次

1. 第3回育成作業と収穫祭
2. ビオトープ 田んぼの脱穀作業
3. 自然観察会とモクソウ

1. 第3回育成作業と収穫祭

今年は例年になく猛暑の年となりましたが、さすがに10月ともなると涼しくなってきました。

10月16日（火）は透き通るような爽やかな青空となりました。

今回は開会は二手に分かれてスタートです。

ボランティアグループは9時半に御前山ダム管理所駐車場に集合し、御前山ダム環境センター会長、地元区長、国営事業所から挨拶、日程や作業説明の後、早速作業開始です。山桜等を植栽したダム湖対岸広場は雑草がたくましく繁茂し、前回の経験を踏まえて刈り払い機を増員して対応しました。やはり人海戦術は素晴らしい成果をあげて、一時間半ほどですっきりきれいになりました。山桜も順調に生育しています。



小中学生を囲んで参加者一同

ダム湖周辺の草刈



お昼には、ビオトープに移動し子供達と合流して全体の集合写真です。今回は御前山小中学校の子供達を含めて120名以上の参加者となり、にぎやかな声が林間に響き渡りました。

昼食は秋の収穫祭を兼ねて、地元の婦人グループが、いつも好評のおコワおにぎりに加えて今回は地元狩猟会が捕獲した野生の猪肉で焼く肉などをご馳走していただきました。

おにぎりは全部で350個以上も用意してくれたとのことで、お土産の持ち帰りに感激でした。

昼食後、ビオトープ周辺の草刈と稀少植物周辺の雑草の選抜除草を行いました。今回は初参加者も結構いたので、

内容の説明をしながらの作業です。

特に林間の「フタバアオイ」は、ここ数年は全く手をかけなくても良いほどにしっかりとした群落を形成していたのですが、何故か中心部が大きく荒廃してしまいました。日照の変化か猪害か原因は不明ですが、とりあえず、落ち葉や雑草を除去し様子を観察することになりました。

一方、数年前に危機的だった「アギナシ」や「タコノアシ」は立派に成長し大群落を形成していました。なかなか全てが上手くいくということはないですね。例年にない猛暑の影響があったのかもしれませんが。

2. ビートーフ 田んぼの脱穀作業

同日、御前山小学校の子供達（5年生）は9時半にバスと徒歩でビートーフ田んぼに集合し、9月25日（火）に刈り取りオダ掛けしてあった稲の脱穀作業です。あらかじめ地元桧山集落の皆さんが脱穀機やトウミなどを現地に設置し



小学生は川遊びに夢中

て容易をしてきており、早速順番に足踏み脱穀機に挑戦しました。最初は戸惑いもありましたが徐々に慣れてきて作業は順調に進み、1時間ほどで完了しました。これで今年の田植え、稲刈り、脱穀と一連の田んぼの学校も無事終了です。ご苦労様でした。

その後、階段ベンチで休憩と昼食となりました。早く食べ終わった子供達は三々五々小川に入って遊び始めました。長靴の中まで水浸しになりながら大声で遊び廻って実に楽しそうでした。



昼食はワイルドに野生の猪肉



選抜草抜き、草刈

3. 自然観察会とモニタリング

御前山中学生の1年生も2台のバスに分乗しビートーフに到着しました。この年次は小学5年生の時にビートーフ田んぼで稲作体験や湛水直前の水没地からコリソウ、カクリなど最後の移植活動をし、6年生で御前山ダム直下に山桜の記念植樹を一緒にしてきており、今年は3年目でよく知っている子供達ばかりです。

今回は、自然観察会として移植した稀少植物の観察だけでなく、モニタリングの学習をすることになりました。国営事業所担当者からダム水没地から移植の経緯、モニタリングの重要性などの説明を受けた後、早速現地を歩きながら具体的な話を聞きました。移植しても数年で絶滅する場合もあり、そこが最適地かどうか調査観察が必要なこと、時には間伐して日照条件を改善したり、最適地に移動分散させる、他の雑草に負けないように選抜草抜き、鳥獣害防除のために電気柵を設置するなど、様々な対応が必要なことを学習しました。今後は子供達もモニタリングに参加してもらえればと考えているところです。



国営事業所担当者からモニタリング説明